

平成 3 1 年 第 1 回

富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

平成 31 年 1 月 25 日 (金)

開会午後 1 時 00 分、閉会午後 1 時 29 分

II 場所

教育委員会室

III 出席委員

1 番 鳥海 清司

2 番 山崎 弘一

3 番 町野 利道

4 番 藤重 佳代子

5 番 村上 美也子

教育長 渋谷 克人

IV 説明出席者

教育次長 坪池 宏

教育次長 布野 浩久

教育企画課長 津田 康志

生涯学習・文化財室長 菊池 政則

教職員課長 坂林 根則

県立学校課長 本江 孝一

小中学校課長 金谷 真

保健体育課長 東瀬 義人

V 傍聴人数 1 人

VI 会議の要旨

午後 1 時 00 分、渋谷教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

(平成 30 年 12 月 17 日開催の平成 30 年第 13 回富山県教育委員会会議録)

会議録閲覧

渋谷教育長から可否を諮ったところ、全員異議がなく承認した。

2 報告事項

(1)平成 31 年 3 月高等学校卒業予定者の就職内定状況 (平成 30 年 12 月末) について

県立学校課長から説明した。

(2)新たなスポーツプランの策定について

(3)平成 30 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

保健体育課長から説明した。

3 その他

今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

4 議決事項

午後 1 時 21 分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項ただし書の規定に基づき、議案第 1 号から議案第 4 号については委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第 1 号 富山県生涯学習審議会委員任命の件

議案第 2 号 富山県社会教育委員任命の件

議案第 3 号 富山県美術館運営委員会委員任命の件

議案第 4 号 富山県水墨美術館運営委員会委員任命の件

## 5 議事

### ○報告事項について

#### 報告事項(3) 関係

〔鳥海委員〕

- ・身長や体重は、全国と比較してどうなっているのか。

〔保健体育課長〕

- ・別調査になるが、近年富山県は、身長は全国より高い状況で体重もそれに伴い少し重いというデータがある。体格はよいといえる。

〔鳥海委員〕

- ・体格がよいということになると、体格に伴って、この体力値が上がっているということになり、体格をイーブンとして見た場合に、本当に上がっているか調査しているのか。

〔保健体育課長〕

- ・委員のおっしゃるとおり、スポーツ庁は全体的な傾向そして継続的な傾向をつかむために偏差値平均ではなく、体力得点に変換するやり方をしている。ちなみに1位の県は富山県よりも体格が劣っている。今後、県の体力向上推進委員会で資料など準備して議論していただきたいと思う。

〔村上委員〕

- ・子ども達は、すごくスポーツをやっている子と、あまりスポーツをやらない・スポーツが苦手だと感じている子の二極化になっていると思うのだが、苦手な子ども達に少しでも好きになってもらうために、何か特別なメニューみたいなものを考えているのか。

〔保健体育課長〕

- ・平成22年度では、体育の時間を除いて1週間のスポーツをする時間が60分以下の生徒の割合が中2女子で30%いたのだが、この課題に対して、ずっと各県で取組みをしてきた。今年の全国結果は19%に下がっているのだから、本県では、先程、中2女子の体力が上がったと言ったが、全国も底上げがしっかり働いて上がってきている状況である。その間やはり施策としては、学校での取り組みやすい運動、ちょうど学習指導要領も変わり、選択性体育が取り入れられたり、ダンスの必修化とかもあり、国の方でもやはり1つでも楽しいスポーツに親しめられるようにという施策を打っている。そういったこともあり、学校での取組みで上がってきているのだと思われる。

〔教育長〕

- ・もう一つ補足させよう、本県独自の取組みをやっている。平成26年度、27年度、2年かけてご指摘のとおり、やはりスポーツや体を動かすことをあまり好きではないという子ども達が、そういう体育やスポーツに興味を持ってもらう取組みでどんなことをしたらいいのだろうか、ということで研究授業をした。その結果、外部人材の方、地域の外部人材の方にご指導を受けた場合に、特に小学校、女子の先生であるとやはりちょっと苦手という意識をお持ちがちだったので、そういう方を導入した場合に非常に効果があった。平成28年度から、市町村の取組みに対して県が財政的に少し支援させていただきながら、そうした取組みに対して、進めていただくようお願いしている。実はお金がかかるので今ほとんどやっていないのだが、一番良いのはビデオを見せるというように見える化することである。とある実践校を見に行き、その学校はマット運動やっていた。前転をするときに、第一段階としてタブレットで映す。それでやっている子の演技を他の子が見て、なぜできないのだろうということを模範演技と見比べながら、子ども達同士で手のつく位置はここが違うからだよと教えあうことでできるようになる。それで嬉しくて、次のステップに行く。また、同じようにして皆でこうだ、ああだと言い合う。このように先生が教えるのではなく、自分達で考えさせるということをやりたいのだが、これは非常にお金がかかるので、ただモデルとして、そういう取組みは大変効果あったということを示しているところである。

〔山崎委員〕

- ・前年との比較、さらにその前の年を見ると、そんなに大きな違いは感じないのだが、6年前以前と比較してみると、ずいぶん色々な面で向上してきているように感じられる。みんなでチャレンジ3015、とやま元気っ子育成とかそういった、これまで継続して行っている事業が功を奏しているのではないかなと

いう気がしている。ちなみに、これは合計点で見ればいいのか、最上位の都道府県の点数はどのくらいなのか。

〔保健体育課長〕

・本県が207.53点なのに対し、最上位の総合計点は218.00点である。

〔山崎委員〕

・それはだいぶ高いのか。

〔保健体育課長〕

・高い。

〔教育長〕

・お気付きだと思うのだが、実はしばらく前まで中学校2年女子が全国の順位という面では悪かったわけだが、頑張るようにと言われて頑張ってきた。逆に今度は中学校男子が少し悪いという傾向にある。毎年変動はしているものの小学生はずっと頑張っているの、これも参考にして、各小中学校で取り組んでいただければと思う。

〔町野委員〕

・順位は非常にばらついていてあまり意味がない。そこで点数を見ても、これも富山県の場合には、例えば20年度から30年度まで眺めてみてもあまり伸びたとは言えない。全国を見るとちょっと伸びたのかなと思う。これは平均値で語っているので、あまりこういう話をしていても意味がない。要は分布を見てるかどうか、偏差値を見ているかどうかである。これを重要視して何か施策を打ちたいというのであれば、分布を見たらうで、施策を打つ。別に例えば来年度からその先に何もなく、今までとおりにやってみるのであれば、平均値で話して、いい、悪いと言っていればそれでいいけれども、何か意味のあることをしようと思ったら、そういう見方を取り入れていく必要があると思う。

〔保健体育課長〕

・体力向上推進委員会でまた検討していきたい。私も疑問であり、偏差値でばらつきも大事だと思ったのだが、国では、1つには、異なる単位、8種目あるので、これを共通のものさし、それは偏差値でも大丈夫だと思うのだが、2つ目には子ども達が10段階から1段階までであるが、8段階にいる子が9段階になるにはあと何回多く飛ばせばいいか、と目標が設定できるということから、体力得点を採用しているということである。

〔町野委員〕

・全体を見るのと、個別を見るの。個別というのは1人1人のことであり、例えばさつき村上委員が言ったような運動が嫌いな子をどうするか、というのは個別の話。全体がどうなっているのかというのが今の話。これの言っていること、母集団の数が多いと何か10年間で伸びてきているように見える。そして母集団の数が少なくなってくるとばらつきが見えてきてあまり上がってない、という話になる。こういうふうに見えるのは、統計上仕方がないが。

○その他

〔教育長〕

・私からご報告であるが、昨日も残念なことがあり交番が襲撃されるという事件があった。近くに県立の学校はなかったが、改めていわゆる不審者対応、もう1つは子ども達、保護者への緊急連絡網を再点検して、注意喚起するように本日中に対応したいと思う。

午後1時29分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。

